

狭心症・心筋梗塞

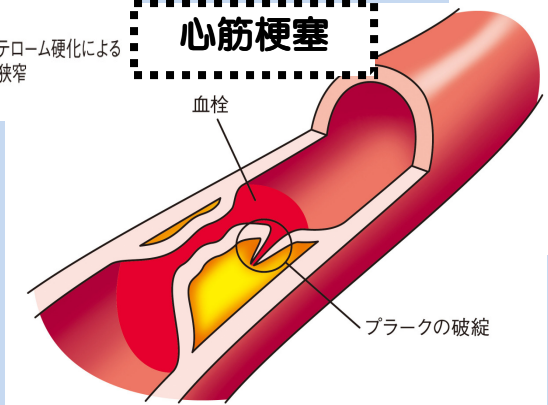
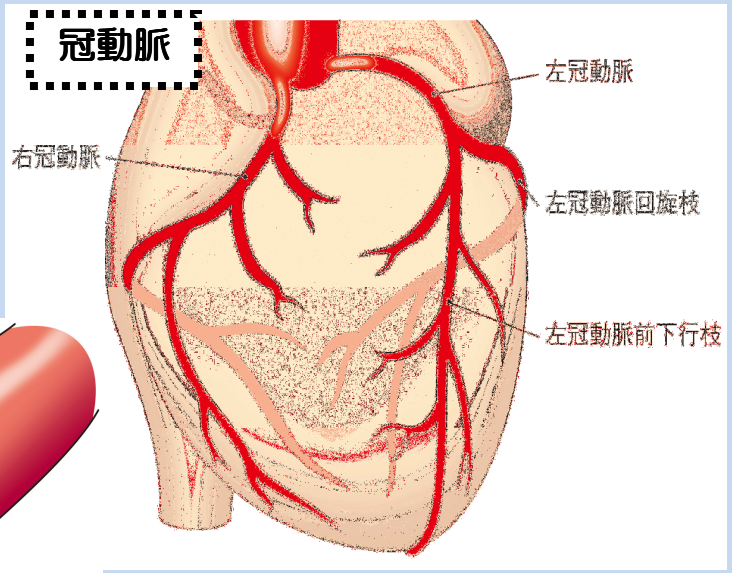
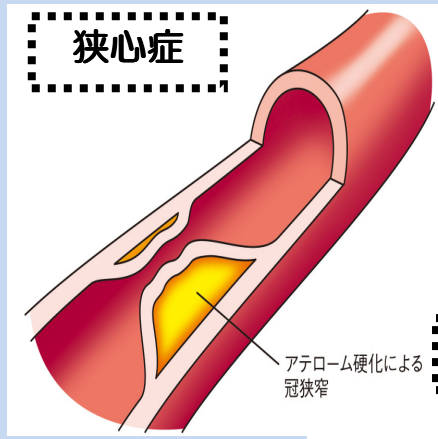


松阪市マスコットキャラクター「ちやちやも」

作成：医事課

<病気について>

心臓の筋肉に血液を送り込み、酸素と栄養を届ける大切な働きをしているのが心臓を取り巻く冠動脈です。動脈硬化（血管の通り道が狭くなり、流れが滞るような状態）が進んで冠動脈の血液の流れが悪くなった状態を狭心症といい、さらに状態が悪化して完全に詰まった状態を心筋梗塞といいます。



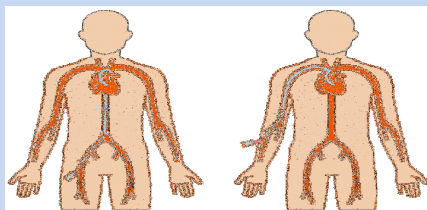
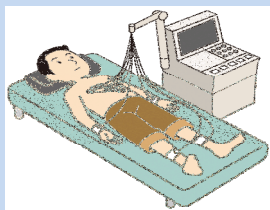
<症状>

狭心症の場合は、胸に痛みや重苦しさを感^{おも}じ、^{あっぱく}圧迫されたり、しめつけられたりするような痛みが5～6分間続きます。痛む場所は、左胸、胸骨の裏側^{うらがわ}などが多く、そのほか、喉^{のど}やあご、左肩^{ひだりかた}や左腕^{ひだりうで}、みぞおちなどに痛みを感じることもあります。進行して心筋梗塞を起こすと失神^{しっしん}するような激しい痛み^{おそ}に襲われ、最悪の場合には心臓の停止・突然死^{とつぜんし}を招くことがあります。



<検査>

基本検査としてまず心電図、心エコー、胸部レントゲン写真、血液検査などを行います。また、狭窄の起きている血管の位置などを正確に把握するために心臓カテーテル検査を行います。腕、脚の付け根の動脈よりカテーテル（2mm 程の管）を入れ、冠動脈へと造影剤を注入します。レントゲンにより造影剤が冠動脈を通過する状態を確認します。



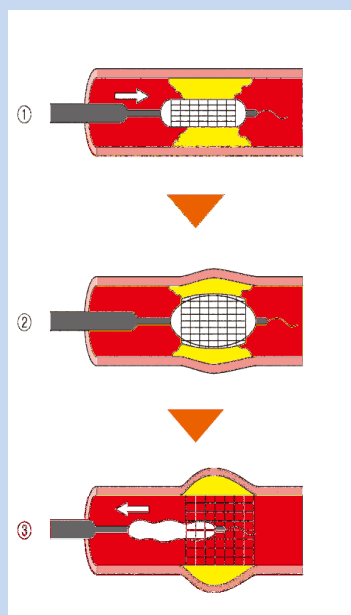
<治療法>

薬物療法

心筋梗塞の初期段階や、狭心症の治療として用いられることが多く冠動脈の血管を広げる、血管に詰まっている血栓を溶かす、心臓への負担を減らすなどの目的とする薬が使用され、治療と共に予防法としても利用されます。

ステント治療

ステントと言われる金属製の網状になっている筒を、血管の狭窄部位に広げることで、血管を拡張させるという方法です。ステントはそのまま狭窄が起きた部位に留めて置いておくことで、再発を防ぐことができます。



<入院費～概算～>

心臓カテーテル検査（CAG）（1泊2日）

1割負担 17,000円 2割負担 34,000円 3割負担 51,000円

経皮的冠動脈ステント留置術（ステント1本の場合）（4泊5日）

狭心症・心筋梗塞：1割・2割負担 44,400円（上限）

狭心症：3割負担 360,000円 前後

心筋梗塞：3割負担 520,000円 前後

※食事代金、個室代金は含まれていません。

※高額医療の方は、申請により限度額認定証が交付されますので、詳細は医事課まで御連絡下さい。

<当院の実績>

2015年度：心臓カテーテル検査 481件、経皮的冠動脈ステント留置術 282件

2016年度：心臓カテーテル検査 457件、経皮的冠動脈ステント留置術 256件

※パンフレットに関するご不明な点等ございましたら、

医事課までお気軽にお尋ね下さい。